

滞在型ホテルで需要開拓

中長期滞在型の宿泊施設が広がってきた。三井不動産は3日、ホテルの新しい上級ブランドを立ち上げると発表した。まずは京都市と東京・銀座で開設する。連泊客らの需要を意識し、体験イベントなども提供する。三井不動産は3日、ホテルの新しい上級ブランドを立ち上げると発表した。まずは京都市と東京・銀座で開設する。連泊客らの需要を意識し、体験イベントなども提供する。大和ハウス工業系のコスモスインシアも滞在型ホテル事業に参入する。「コト消費」が拡大するなか、訪日客やシニアらの宿泊需要を取り込む。

三井不動産 体験イベント提供 大和ハウス系 3～5人宿泊想定

中長期滞在型の宿泊施設が広がってきた

事業者	宿泊形態
コスモスインシア	3～5人の宿泊者が3日程度の滞在を想定した宿泊施設を展開へ
積水ハウス	数週間から数カ月の滞在を目的にした「サービスアパートメント」事業に参入
星野リゾート	東京・大手町のオフィス街にも滞在型旅館を開設
三井不動産	高級ブランド「ザ セレスティンホテルズ」を観光地などで展開
森トラスト	地方都市を中心に外資ブランドホテル「マリオット」の展開に注力

が誘致した高級外資ホテル（5万円以上）と、同社の主力ブランド「三井ガーデンホテル プレミア」（2万円前後）の間を想定。新たな宿泊マーケットを開拓する。4日前後の宿泊を想定しており、宿泊客の半数は都心の主力ホテルと同様、訪日客で占めるとみる。新ブランドの開設目標は海外での事業展開は未定。まずは京都市と東京都の計3カ所を今年秋にも開業する。京都市では清水寺の近くに開設し、客室数は157。30平方メートルの客室が基本で、靴を脱いで入ってもらう。東京・銀座では104の客室を用意。最上階の14階には都内で展開するバーラウンジを誘致する。

コスモスインシアも中長期滞在型のホテル事業を始める。1部屋に3～5人が滞在できる40平方メートルほどの広さの部屋を用意。キッチンやダイニングルームを設ける。2018年にも東京都や京都市で5棟を開業する計画だ。



三井不動産の新ブランドホテルの外観イメージ（京都市）

訪日客の観光需要が都心から地方にも流れたりと、滞在日数が長くなったりするケースが目立つ

てきている。各社は従来どみて、多様なホテル業型の宿泊施設だけでは需要の提供に力を入れていよを取りこぼしかねない方針だ。